

## ハッキリした 主任レポートの本質が 事実と違う報告で日勤に

わたしたち東海労はこの間、主任レポート＝「主任としての報告」が業務管理、社員管理そのものだという事を明らかにしてきました。そして、決して動く監視カメラにはならないことも明らかにしてきましたが、わたしたちの心配していた事が実際に起きてしまいました。しかも、その動く監視カメラは誤動作したのです。その本質がハッキリしました。

東海労組合員が車掌として乗務中に、同乗のパーサーから「お客様から〇〇へ行くにはどういう列車があるのかと聞かれましたが、分かりませんので教えて下さい」と助言を求められました。組合員は、パーサーに乗り換えの線名と乗り換えやすい駅を説明し、パーサーはその内容をお客様にご案内したと思われます。

しかし、その後お客様から車掌長に「間違った説明をされた」と申し出があり、車掌長はお詫びし再度ご案内をしたようです。「思われます」「ようです」と表現するのは、組合員は実際にはお客様とは会っておらず、パーサーと車掌長がお客様とどの様な会話をしたのかを全く知らないからです。

車掌長は、退出点呼で「誤案内の苦情があったがうまく納めた。〇〇車掌を指導した」と報告をしました。立派に主任報告をしました。しかし、その内容は事実によらないものでした。当然、組合員は事実と違うと説明したが受け入れられませんでした。点呼終了後、車掌長に抗議をしたところ聞く耳を持たないばかりか、このことを察知した営業科は「報告を受けたいことがある」として次勤務を日勤に振り替えました。日勤では、車内でのやり取りや「指導」だけではなく、

むしろ退出点呼時とその後の車掌長とのやり取りを問題にされ「職場を<sup>びんらん</sup>紊乱した」とされたのです。

この場合、紊乱とは職場の秩序や風紀などを混乱させたということになります。しかし、職場内が混乱したわけでも、見ていた管理者から注意があった事実もありません。

## **全てのみなさんにあらためて明らかにします**

わたしたち東海労は、動く監視カメラにはなりません

車掌長が受けた「苦情」について、車内で組合員と車掌長が話しをしたことは事実で、その時組合員はパーサーとのやり取りの説明をしました。そのことを持って「〇〇車掌を指導した」とされてはたまりません。指導などされていないのです。しかも、退出点呼前のミーティングでも一切触れられていなかったのです。

車掌長に悪気があったかどうかは分かりません。だから、たんに車掌長個人を非難しません。しかし、この事実と違う報告は「新しい人事・賃金制度」「社員のあるべき姿」「主任層による報告の充実について」、そして「業務管理、社員管理」をしっかり担っていることは間違いありません。主任レポート＝「主任としての報告」が動く監視カメラの役割しかしていないことがハッキリしました。

いずれは報告した人自身が自分をも監視することになり、また自分も監視されることになるのです。そして、みんなが監視しあう職場になってしまいます。

## **みなさん違いますか？ 共に声を出しましょう！**

所長は、一部の無責任な「プロにあるまじき言動」と云うかもしれません。大声で職場が紊乱され混乱したというかもしれません。何と言おうと、事実と違う報告がされたことは現実です。みなさんの実感はどうですか？ 違いますか？

わたしたち東海労は、主任レポート＝「主任としての報告」、動く監視カメラに反対しています。みなさんのなかには同じように、いやな思いをした方がいるかもそれません。

**みなさん！ 共に大きく声を出しましょう！**

動く監視カメラの誤動作は許さない

動く監視カメラにはならない と